

黙示録5章6-14節 「封印を解く子羊」パート②

1A 封印を解くにふさわしい方 1-7

1B どこにもいない、ふさわしい者 1-4

2B 勝利を得た小羊 5-7

2A 子羊への礼拝 8-14

1B 血によって贖われた者たち 8-10

2B 無数の御使いと被造物 11-14

本文

黙示録5章を開いてください。私たちは前回、1節から5節までを見ました。すべてを支配しておられる神が、天で御座についておられますが、この方が右手に、巻物を持っておられました。それは、世界を神の元に取り戻すところの権利証書です。世界が、アダムの罪によってサタンに売られてしまったところを、贖って、神のものとする、神の国とするところの購入証書です。それは、七つの封印で閉じられていましたが、それを解いて開く資格のある人が、だれもおらず、ヨハネはむせび泣きました。しかし、長老の一人がこう言ったのです。「5:5 泣いてはいけません。ご覧なさい。ユダ族から出た獅子、ダビデの根が勝利したので、彼がその巻物を開き、七つの封印を解くことができます。」ユダ族の獅子、ダビデの根も、預言の中で、ダビデから出るキリストであることが分かります。この方が、封印を解く資格、つまり、贖いをすることができます。

後半は、この贖いを、どのような対価で支払ったのか？ということ、まず見ます。それから、キリストが巻物を受け取って、天に起こる一斉の賛美と礼拝を見ます。その主体になっているのが、誰なのか？を見ていきます。

2B 勝利を得た小羊 5-7

^{6a} また私は、御座と四つの生き物の真ん中、長老たちの真ん中に、屠られた姿で子羊が立っているのを見た。

「屠られた姿」で、「子羊」が現れています。四つの生き物と長老たちの真ん中に立っておられて、「見た」とヨハネ入っています。全ての注意と注目がイエス様に向けられています。

イエス様は、ご自分のいのちを捨てられることによって、それを贖いの対価とされました。その対価は、旧約聖書のいけにえの制度に出てくる、「子羊を屠る」ということで、行っています。この方は罪の供え物として死んで、葬られて、今このように生きておられるのだ、ゆえに勝利を得たのだ！ということです。と言っています。小羊が屠られて、よみがえられたことが勝利です。主がご自

身を信じる者にも、「勝利を得る者」と言われて七つの教会に約束をお与えになりました。イエス様は、数多くの戦いを経て、救いを全うされました。バプテスマを受けられ、その後に御霊に導かれて荒野に行かれ、悪魔の誘惑を受けられました。そして、十字架の道を歩まれましたが、そこは暗闇の力でありました。ゲッセマネの園において、血の混じった汗を流されました。こうして激しい霊の戦いの中で、神の御心を行い、勝利されました。

子羊については、過越の子羊があります。家族が家の中で子羊をほふり、その血を家の門柱と鴨居につけます。そして、エジプトに下る災いとその家を過ぎ越します。そして、罪の赦しのための子羊のいけにえは、数多くモーセの律法の中に書かれています。この流された血こそが、私たちを救う神の力です。バプテスマのヨハネは、イエス様を見たら、「見よ、世の罪を取り除く神の子羊」と言いました(ヨハネ 1:29)。これから、黙示録の最後、新しいエルサレムに至るまで、イエス様は「子羊」として登場します。罪のための屠られた方こそが、私たちを贖い、永遠の救いを与えられます。それゆえ、永遠に、この方のなされた業がほめたたえられます。

そして子羊が、「立っている」ことにも注目してください。イエスが昇天されましたが、そのときに父なる神の右の座に着座されました。座っておられました。それは、ヘブル書によると、人々が救われるために必要なことを、イエスさまがただ一度、十字架の上に成し遂げられたので、他の救いのためにすることはなくなったからです。救いのみわが完成したのです。今もイエス様は、神の右に座しておられ、私たちのために執り成しておられます。けれども、詩篇 110 篇 1 節に書かれてあるとおり、父なる神は御子に対して、「【主】は私の主に言われた。「あなたはわたしの右の座に着いていなさい。わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまで。」敵を足台とする、つまり、世界がキリストのものとなり、悪魔がキリストの足台とするため、ご自身が地上に戻って来られます。その時、キリストは右の座から立ちます。これから、地上に戻られるために立たれたのです。

^{6b} それは七つの角と七つの目を持っていた。その目は、全地に遣わされた神の七つの御霊であった。

聖書における「角」は、権威や力を表しています。反キリストが後に、十本の角の獣として現われますが、それは支配と権威を持っておられるイエスの、摩り替えを行なっているからです。七は神の完全数ですから、七つの角は、主イエスが、父なる神からの全ての権威が与えられている姿です。そして「七つの目」は、ここにあるとおり神の御霊です。すでに 1 章 4 節にも、御霊の姿がありました。目は、すべてのことを知っておられることを意味しています。ゼカリヤ書にて、祭司ヨシュアに対する預言がありますが、それは後に来る王であり、かつ祭司であるメシアの姿を表しています。そしてメシアである石には、七つの目があることが預言されています(3:9)。この方が、全地に遣わされていました。聖霊が弟子たちに降り、福音を宣べ伝え、世界に広がりました。

⁷ 子羊は来て、御座に着いておられる方の右の手から巻物を受け取った。

ついに、子羊が巻物を受け取られました！この情景は、ダニエル書 7 章に預言されていました。「7:13-14 私がまた、夜の幻を見ていると、見よ、人の子のような方が天の雲とともに来られた。その方は『年を経た方』のもとに進み、その前に導かれた。14 この方に、主権と栄誉と国が与えられ、諸民族、諸国民、諸言語の者たちはみな、この方に仕えることになった。その主権は永遠の主権で、過ぎ去ることがなく、その国は滅びることがない。」ここにあるように、父なる神の御座に近づかれて、巻物を受け取られたら、それは世界がキリストのもの、キリストの御国になることを意味していました。それでその贖いのための権威が与えられたことを一斉に賛美が始まります。

2A 子羊への礼拝 8-14

1B 血によって贖われた者たち 8-10

⁸ 巻物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長老たちは子羊の前にひれ伏した。彼らはそれぞれ、豎琴と、香に満ちた金の鉢を持っていた。香は聖徒たちの祈りであった。

四つの生き物と二十四人の長老が、子羊の前にひれ伏します。これは、完全に倒れ伏して、この方を拝む行為です。長老たちは「豎琴」を持ちます。黙示録において、二度、天において豎琴が弾かれているのを見ます。詩篇の中に賛美において、またダビデが少年の時、豎琴をひいていました。メギドの遺跡には、レビの家系が豎琴を弾いている姿が描かれているものが発掘されています。それは、天においてこのように、豎琴を弾いているのを、地上において実践していたのです。

そして、「香に満ちた金の鉢」を持っています。地上の幕屋において、金の香壇が聖所の中にあつたことを思い出してください。大祭司は、その香を契約の箱の上で覆いますが、地上の幕屋は天にあるものの模型であります。「ヘブル 8:5 この祭司たちは、天にあるものの写しと影に仕えています。それは、モーセが幕屋を設営しようとしたときに、御告げを受けたとおりのものです。神は、「よく注意して、山であなたに示された型どおりに、すべてのものを作らなければならない」と言われました。」私たちが、地上の幕屋を読むとき、また旧約聖書における神殿での奉仕、賛美などを読むときに、なぜそこまで詳しく書いているのだらうと思うかもしれません。けれども、それこそが、神のみこころであり、私たちに神は礼拝を献げることを望んでおられるのです。豎琴もそうですし、そして、ここでは香に満ちた金の鉢です。地上で大祭司が、香壇のところで香を焚くのですが、それは天における香を表していました。

そしてこの香は、「聖徒たちの祈り」でした。「詩 141:2 私の祈りが御前への香として手を上げる祈りがタバコのさきげ物として立ち上りますように。」香が、至聖所の契約の箱の間にまで行くというのは、祈りが神に届けられている姿を示していたのです。そして、これが、子羊が巻物を受け取られたことが、聖徒たちの祈りの答えであることを示しています。思い出してください、イエスさまが

私たちにこう祈りなさいといわれた祈りの中に、次のようなものがありました。「マタ 6:9-10 ですから、あなたがたはこう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名が聖なるものとされますように。10 御国が来ますように。みこころが天で行われるように、地でも行われますように。』世界中で、二千年祈られてきたこの祈りが、神の前に届けられています。そして、この地上に神の国が立てられる祈りが、今聞かれています。

⁹ 彼らは新しい歌を歌った。「あなたは、巻物を受け取り、封印を解くのにふさわしい方です。あなたは屠られて、すべての部族、言語、民族、国民の中から、あなたの血によって人々を神のために贖い、¹⁰ 私たちの神のために、彼らを王国とし、祭司とされました。彼らは地を治めるのです。」

四つの生き物、そして二十四人の長老たちがひれ伏している時、聖徒たちがこの新しい歌を歌ったのです。「新しい歌」とは、新しい命、新たな交わり、その関わりにある新しさを表しています。新しい契約の中に入っているのですから、新しい歌なのです。

そしてここに、「人々を神のために贖い」という言葉と、「彼らを王国とし」また「彼らは地を治めるのです」とありますが、ギリシア語の写本のほとんどすべては、この「彼ら」や「人々」は、「私たち」になっています。そこで読み替えてみます。「あなたは屠られて、すべての部族、言語、民族、国民の中から、あなたの血によって人々(私たち)を神のために贖い、¹⁰ 私たちの神のために、彼ら(私たち)を王国とし、祭司とされました。彼ら(私たち)は地を治めるのです。」ここでこの歌をうたっているのは、天にいる「聖徒たち」です。この歌は明らかに、天にいる教会の歌であります！つまり、これは、天に引き上げられた教会であり、私たちがここにいるということです！

彼らは、いや、私たちは子羊の血によって贖われました。ペテロは第一の手紙で、「1:18 ご存じのように、あなたがたが先祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、」と言っています。そして黙示録1章にあるとおり、イエス・キリストが、「1:6 また、ご自分の父である神のために、私たちを王国とし、祭司としてくださった方に、栄光と力が世々限りなくあるように。アーメン。」です。今、子羊が七つの封印のある巻き物を受け取っているその時に、天に教会があるということなのです。これから、6章から、封印が解かれて地上に裁きが下るのですが、その患難の前に教会がすでに天にまで引き上げられています。

イエスが世界を贖われるのは、そこにご自身が愛された宝である教会があるからです。これを、前回、じっくりと見ました。ルツの話です。ボアズはルツを自分の妻に、自分ものとするために、ナオミの夫エリメレクの土地を対価を支払って買い取りました。同じように、教会をご自分のものとするために、世界をご自分のいのちを献げることによって、買い取ったのです。イエス様の天の御国の奥義の、たとえの一つが、「畑に隠された宝」です。「マタ 13:44 天の御国は畑に隠された宝のようなものです。その宝を見つけた人は、それをそのまま隠しておきます。そして喜びのあまり、行

って、持っている物すべてを売り払い、その畑を買います。」畑の中にある宝とは、私たち教会のことです。神がキリストにあって、世界の基が置かれる前から選んでくださった人々のことです。そしてその宝を得るために、全財産すなわち、ご自分のいのちを代価にして、全世界を買い取って下さいました。これからイエスが地上に再臨されて、世界が変わり、神の国になるのです。それほど、私たちはキリストにあって、高価で尊い存在であり、愛されているのです。

そして、ここに、「すべての部族、言語、民族、国民の中から」と強調されています。これが、黙示録で繰り返し出て来る言い回しです。なぜならば、これはイエス様の宣教命令だったからです。全ての国民を弟子としなさい、と主は言われました。そして、アブラハムへの約束に、あなたの子孫によって全ての民族が祝福を受けるとありました。バベルの塔の事件以来、人々が言葉に、民族に分れ出しました。漏れることなく、あらゆるところに主は罪人を救うキリストを遣わし、全てのところから主はご自分の民となるものを贖い出されるのです。ただ、キリストの流される血によって、贖われます。そして、一つの神の民となるのです。私たちは、日本に住んでいるので、この意味合いがよく分らないかもしれません。同じ国民が同じ民族とは限らないのです。同じ国民が、同じ言語を話しているか、必ずしもそうではないのです。そして、数多くの部族が一国にいる国は、ざらにあります。私たちの教会に時々来ている、フィリピン人の兄弟は、何十もの部族がフィリピンの中にいて、言語も多彩であると言っていました。ですから、単純に、すべての国民から、と言ったら、不十分なのです。抜け目なく、だれも漏れることのないように、「すべての部族、言語、民族、国民」と言っています。そして、これらの人々が、ただキリストの血が流されたということで、一つ民となっているのです。これこそが、神の美しい救いの一つの側面です。主は今、活発に御霊によって世界で働いておられます。七つの目をもってイエス様は働いておられます。そして、教会を天に引き上げられ、このように皆で、一斉に賛美を献げます。

そして、「地を治める」と歌っています。七つの教会に、勝利者が地を治める約束をイエス様が与えておられました。ティアティラにある教会に対して、こう言われました。「2:26-27 勝利を得る者、最後までわたしのわざを守る者には、諸国の民を支配する権威を与える。27 彼は鉄の杖で彼らを牧する。土の器を砕くように。」キリストを信じた者は、神の子供となり、また神の国を相続するという約束を、使徒たちは手紙の中で何度となく教えました。その約束を歌っています。

2B 無数の御使いと被造物 11-14

¹¹ また私は見た。そして御座と生き物と長老たちの周りに、多くの御使いたちの声を聞いた。その数は万の数万倍、千の数千倍であった。

主に愛され、贖われた者たちが天において、その救いをほめたたえている時に、そのことを共に喜んでいるのが、ここにある無数の御使いです。覚えていますか、御使いたちも神の奥義、すなわち私たちが福音によって救われることを知りたがっていたと使徒ペテロが教えています。「1ペテロ

1:12 彼らは、自分たちのためではなく、あなたがたのために奉仕しているのだという啓示を受けました。そして彼らが調べたことが今や、天から遣わされた聖霊により福音を語った人々を通して、あなたがたに告げ知らされたのです。御使いたちもそれをはっきり見たいと願っています。」そしてイエス様は、一人が悔い改めたら、天において御使いたちに喜びが起こることを語られました(ルカ 15:10)。そして、無数の御使いがいます。ヘブル人への手紙の著者は、私たちが天のエルサレムに近づいていおり、また無数の御使いにも近づいていることを話していました。「ヘブル 12:22 しかし、あなたがたが近づいているのは、シオンの山、生ける神の都である天上のエルサレム、無数の御使いたちの喜びの集い、」とあります。

¹² 彼らは大声で言った。「屠られた子羊は、力と富と知恵と勢いと誉れと栄光と賛美を受けるにふさわしい方です。」

彼らの声は、屠られた子羊に向けてのもので、「力と富と知恵と勢いと誉れと栄光と賛美」と言っています。父なる神に対してと同等の賛美です。神と子羊が一体になっています。

そして、「屠られた子羊」に対して賛美があります。主は十字架において、弱くされていました。しかし、その弱さにこそ、信じる者すべてを救う神の力が完全に現われています。そして、主は全てを奪い取られ、貧しくされました。しかし、その貧しさによって、私たちに富む者としてくださいました(2コリント 8:9)。それから、人々は十字架に付けられたキリストが、何と無駄な人生を送ったのかと嘲り、愚かなことだとあしらいました。しかし、十字架にこそ神の知恵のすべてが隠されています。そしてイエス様の勢いは、十字架で阻まれたかのようにでしたが、実は神のご計画は勢いよく進んでいました。イエス様は卑しめられましたが、その卑しめにこそ、誉れがあり、また神の栄光がありました。そして嘲られているけれども、その十字架こそに賛美の源があります。全てがこのように、矛盾し、逆転しているのです！

¹³ また私は、天と地と地の下と海にいるすべての造られたもの、それらの中にあるすべてのものがこう言うのを聞いた。「御座に着いておられる方と子羊に、賛美と誉れと栄光と力が世々限りなくあるように。」

自然界が主をほめたたえています！詩篇の中に御使いが賛美、そして地上にあるものが賛美する姿がでできます。例えば 146 篇です。

¹ ハレルヤ。天において主をほめたたえよ。いと高き所で 主をほめたたえよ。

² 主をほめたたえよ すべての御使いよ。主をほめたたえよ 主の万軍よ。

³ 日よ 月よ 主をほめたたえよ。主をほめたたえよ すべての輝く星よ。

⁴ 天の天よ 主をほめたたえよ。天の上にある水よ。

- ⁵ 主の御名をほめたたえよ。主が命じて それらは創造されたのだ。
- ⁶ 主は それらを世々限りなく立てられた。主は 去りゆくことのない定めを置かれた。
- ⁷ 地において主をほめたたえよ。海の巨獣よ すべての淵よ。
- ⁸ 火よ 雹よ 雪よ 煙よ。みことばを行う激しい風よ。
- ⁹ 山々よ すべての丘よ。実のなる木よ すべての杉よ。
- ¹⁰ 獣よ すべての家畜よ。這うものよ 翼のある鳥よ。
- ¹¹ 地の王たちよ すべての国民よ。君主たちよ 地をさばくすべての者たちよ。
- ¹² 若い男よ 若い女よ。年老いた者と幼い者よ。
- ¹³ 主の御名をほめたたえよ。主の御名だけがあがめられる。その威光が 地と天の上で。
- ¹⁴ 主は御民の角を上げられた。主にある敬虔な者すべての賛美を 主の近くにいる民 イスラエルの子らの賛美を。ハレルヤ。

神の民が贖われたら、それは畑の中の宝の喩えにあったように、被造物が贖われることを意味しています。だから、彼らは六日目に造られた、神のかたちに造られた人の贖いを、自分たちも喜んでいるのです。「ローマ 8:21 被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由にあずかります。」

そして、その被造物の範囲ですが、天と地だけでなく、地の下、海の上にまですべて及びます。被造物のあらゆるものであります。地の下が含まれているのは、死んだ者たちも含めて、ということでしょう。また、悪霊や最終的には悪魔も、イエスが主であるとあがめなければいけない日がやって来ます。パウロがピリピ人への手紙に、こう言っているとおりです。「ピリ2:10-11 それは、イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが膝をかがめ、11 すべての舌が「イエス・キリストは主です」と告白して、父なる神に栄光を帰するためです。」不信者も、神に反抗する墮落した天使も、強制的にイエスが主と認めることとなります。

- ¹⁴ すると、四つの生き物は「アーメン」と言い、長老たちはひれ伏して礼拝した。

賛美は、子羊から父なる神にも帰って来て、そして礼拝も、贖われた教会、御使い、天地へと来てから戻って来て、四つの生き物と長老たちが再びひれ伏して、拝んでいます。「アーメン」と言っています。ここは一回だけ言ったのではなく、正確には「言っていた」と訳すべきところです。つまり、何回もアーメン、アーメン、と言いつけていたこととなります。ここまでが天の情景です。そして6章から、七つの封印が解かれている、地上の姿が出て来ます。